

#### 4. 学会動向

フォーラム・研修会等参加報告

フォーラム・研修会名

私立大学情報教育協会 教育改革 IT フォーラム

報告者名：小野 秀之（情報システム課）

<開催概要>

開催日：2007年6月16日（土）

場所：明治大学リバティータワー

開催趣旨：

教育改革の課題を解決するための方策を模索するため、ファカルティ・ディベロップメント、スタッフ・ディベロップメントへの取り組み、教育支援・学習支援、学習意欲の向上を促進するIT活用の工夫など問題提起を踏まえ、研究討議する他、教育活動に役立つ事例紹介を実施する。

<報告内容>

1. テーマ別自由討議「スタッフ・ディベロップメントへの組織的取り組み」

[主な内容]

教育改革や大学改革を実現させるためには、教員側だけでなく職員の意識改革、能力開発が重要である、との観点から、スタッフ・ディベロップメントや教職連携による改革への取組みを積極的に推進している立命館大学の事例をご紹介いただいた。

立命館大学では、2005年度に「大学行政研究・研修センター」を設置した。これは、大学教育・研究への深い見識や、経営判断に沿った具体的政策の立案や実践を行う能力を備えた大学幹部職員を養成する目的で設立された組織であり、過去2年間に37名の立命館大学職員と関連会社社員を受講生として受け入れているという。

この組織では、「大学幹部職員養成プログラム」を開講し、1年間にわたる週1回程度の講義・演習、論文作成などを実施している。講義では、大学行政に関する情勢や法整備等の一般論的内容から、大学内の各部署における業務内容などを主なテーマとする。また演習においては、グループワーク形式で自課の業務内容や課題を紹介しあい、討議する。そこで得られた他者からの指摘やアイデアなどは自課へフィードバックし業務改善に繋げるなど、非常に業務に密着した内容となっているようである。また、場

合によっては自課の上長（課長・係長）も同席させ、グループワークにおける厳しい指摘などに対応するようにしているという。なお、この組織において大学アドミニストレータ養成大学院（仮称）の設立準備をしているとのことである。

#### [所感]

大学改革には、職員ひとりひとりの意識改革や能力の底上げが必要であるという、建設的な理論を実践する施策が大学全体の制度として整えられていることに驚きを感じた。なお、事務職員に対する人事的なインセンティブは、僅かな金額の表彰制度程度だという。この非常に前向きな姿勢はどこから生み出されるのか、といった質問に対しては、前理事長のリーダーシップと、前理事長の持論であったという「学生の立場に立てば、全ての問題はうまく解決する」という意識が全職員に行き渡っているのではないか、という回答であり、その考え方に強く共感を覚えた。

各大学が生き残りをかけ、大学改革や教育改革へ向けた個性的な戦略が必要とされている情勢のなかで、ご紹介いただいたような全学的なスタッフ・ディベロップメントへの取り組みは、非常に意味があり、いつか必ず実を結ぶであろう。

情報システム課という部署にいと、目の前の業務に追われるなかで、どうしても大学職員として持つべき全体的な視点や考え方を忘れがちである。だからといって立命館大学のような組織全体としての取り組みを活用することは現状では困難であるため、自分の業務と大学行政との関係性を常日頃から十分に認識し、「学生の立場に立つ」ということを忘れずに業務に当たりたい。そのような意識を改めて感じさせるうえで、大変有意義な内容であった。

## 2. 事例紹介「重層的な学習支援の取り組みと支援環境の整備」

#### [主な内容]

全国初という学習支援センターでの取組みの概要をご紹介いただいた。

1998年の開学年度に設立した学習支援センターでは、入学前教育から学士教育課程での学習支援まで、学内の他組織（高等教育開発センター、初年次教育研究センター等）やアドバイザー（教員が担当）と連携しながら

実践している。設立以来、PDCA サイクルに則り発展を続けてきたという。

当組織における主な施策としては、学士教育課程での質保証と学習支援が挙げられる。質保証として、「学習ベンチマーク」という考え方を取り入れている。これは、学生が在学中に身に付けるべき具体的な到達目標を、全学共通の大項目として5項目、さらに各項目に対して中・小項目を数個設定し、各授業科目がそれぞれのどの項目を満たすために実施されるのかをシラバスに明記し、学生と教員各々において授業科目における目標を共有するという方法である。学期初めと終わりには、学習ベンチマークチェックシートにより学生が学習の成果をチェックする。

学習支援としては、学生が個人の学習記録をファイルにより蓄積させる「ポートフォリオ」を実践している。教員には、レポートを提出させたら必ずコメントを付けて返却するように徹底させ、学生が自己の学習成果を容易に振り返ることが可能な環境を提示している。また、学業成果や大学に対する貢献、自己啓発などに対し評価する制度として、「キャンパスマイレージ制度」を取り入れている。

#### [所感]

学生が努力した成果を、目に見える形で大学として評価するという様々な制度を実践している。目新しい画期的な施策が幾つも実践されているのは、大学規模や開学当初からの戦略的な方針が整っていたことが大きな理由のひとつとして考えられるが、アイデアとしては非常に興味深いものである。

本学の規模でこれら全てを取り入れることは困難かもしれないが、学習ベンチマークの考え方などは、目標管理に相通じるものも感じられ、大変参考になった。

以上